

## 「プランクトンの撮影方法」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私が、どうやってプランクトンの顕微鏡写真を撮っているのか・・・という質問が2件も殺到していた。すごい装置が必要だと思われるかも知れないが、いたってシンプルである。実は、顕微鏡の接眼レンズに、普通のコンパクトデジカメのレンズを押し付けて、シャッターを押しているだけなのだ。天体写真で言うところの、「**コリメート法**」である。



「ごく普通のデジカメ」 顕微鏡写真はほとんどこれで撮っている。接眼レンズに、肉眼の代わりにこのカメラのレンズを押し付けて、シャッターを押すだけ。動くプランクトンなら、動画も撮れる。もちろん、普通の風景、植物、虫なども撮れるので、常に「取材」ができるように、いつも持ち歩いている。



「**クンショウモノ**の一種」 露出もシャッタースピードもフォーカスも全自動で、こんなに美しく撮れる。

植物プランクトンなら、動かない種類が多いから撮影は簡単だ。しかし、ケンミジンコ（キクロプス）のように、動きの速い甲殻類は、ちょっと厄介である。よく試されるのは、スライド上で、脱脂綿の毛羽に検体の水を吸い取らせ、そのすき間に留まったものを観察する・・・という方法だ。これはうまくいくが、自然な写真にはならない。私の場合、できるだけスライドグラスとカバーグラスのすき間の水を吸い取って、動きを封じて撮影している。高価な濾紙でなくても、ティッシュペーパーで十分である。



「水分が多い場合と少ない場合の違い」

上の写真が水分を減らす前で、ケンミジンコ（コペポデイド幼生）があばれて、尾の部分がブレてしまっている。下の写真は水分を減らした状態。ケンミジンコ（成体）がじっとして、尾の細部まではっきりと写っている。それでも、消化管の中の蠕動運動は続いていて、死んではいない。動画で撮ると面白い。